

吉野復興大臣の第5回I O C調整委員会会議

公式夕食会ぶら下がり会見録

(平成29年12月12日(火) 21:30~21:35 於) 東京プリンスホテル)

1. 発言要旨

今日はすばらしい復興五輪ということで、I O C調整委員会の方々をお招きして、東北の、それも被災地の食材、全部被災地の食材、お酒も被災地のものであります。これをI O Cの役員の皆様方に提供できたということは、復興五輪ここにあり、やっと復興五輪を全世界に広めることができ、本当にうれしい思いでいっぱいです。ありがとうございます。

2. 質疑応答

(問) コーツさん初め、I O Cの方たちはどんなメッセージというか、言葉を交わされましたか。印象に残っている言葉とかはありますか。

(答) コーツ委員長とは直接お話はできなかつたんですけども、同じテーブルの、スイスのエグゼクティブ・ディレクターの方といろいろお話をしました。いろいろ出ましたけど、特に私が津波の被害を受けている被災者であるということ、そして、原発の被災者であるということをお話したら、びっくりして、ある意味のお見舞いを受けたところなんです。そして、今、原発はどうなっているんだという、そんなお話をさせていただきました。

(問) それに対して、最近の復興の現状なども説明されたんですか。

(答) はい。私の仕事は何ですかという質問を受けたんですけども、まずは堤防を作ったり、高台移転したり、区画整理をしたりというハード面が主な仕事なんだけれども、そっちの方は順調に進んでいて、今やっていることは、例えば水産業、なかなか販売が進まない、スーパーの棚を奪われている、そういう販売促進とか心のケアとか、そういうソフト事業の方に、今、方向転換をしておりますということをお話させていただきました。

(問) 今日は被災3県の食材を味わってもらうのと、東北の魅力を伝えることは成功したと思いますけれども、中でも福島にとっては、原発の風評被害の払拭というのは大分課題になっておりまして、その意味でも、今日はいらっしゃった委員の方に食べてもらったことはすごく大きな意義があると思いますけれども、大臣はいかがお考えでしょうか。

(答) 全くそのとおりです。I O C調整委員会含め関係者の方々が、約50人来ておりますので、その方々に福島県の食材を食べていただいたということは、これはもう安全なんだ、大丈夫なんだと

いうことを身をもって体験されたと思います。これからは、彼らを通して、全世界の方々に福島県の食材は大丈夫なんだということを書いてもらえる、そういうことにつながろうかと思いたすので、本当に大成功です。ありがとうございます。

(問) あと復興庁の立場なんですけれども、復興五輪ということで関わってはきたんですが、オブザーバー的な役割が多かったんですけれども、今日は主催者の一角として、大臣御挨拶されましたけれども、その意義についてはいかがでしょうか。

(答) 復興五輪推進チームという制度を新たに作りまして、きちんと辞令も渡して、その一番最初の仕事がこのIOCの夕食会でございます。そして、3県知事もお招きをして、森会長の言葉ですけれども、それぞれの知事がウェイターになって、自分の自慢のお酒を、IOCの委員の方々にウェイターになって振る舞っていたという、森会長のお言葉のとおり、本当に被災地、特に被災3県のPRができたのかな、こんな思いでいっぱいです。

(問) 実際にオリンピック・パラリンピックの大会期間中に食材を使うというのが、今、食材の戦略素案に入っていますけれども、実際にどういうことを期待したいですか、大会期間中、食材については。

(答) オリンピックのアスリートの方々に食べていただくためには、GAP、いわゆる第三者認証を取得しないと、オリンピックの食材としては使うことができません。今年度、約47億円ほど関連する予算が計上されています。この予算等を使って、GAPをいかに取ってもらうかが、被災3県にとって重要と考えています。

(以 上)